

登山者向け携帯版

携帯電話通話可能ルート



焼岳

アカンダナ山

火山防災マップ

焼岳は現在も活動を続ける活火山です。火口から噴煙をたなびかせる美しく雄大な姿とともに、火山としての危険な表情を持っていることを、常に忘れてはいけません。この火山防災マップでは、焼岳の歴史や魅力を伝えるとともに、焼岳周辺の地図情報、噴火警戒時の規制などを紹介しています。

連絡先

緊急時の連絡先	
高山警察署	0577-32-0110
高山市消防本部	0577-32-0119
火山の異常を感じたら	
気象庁火山監視・警報センター	0570-015-024
気象、火山に関する情報	
火山：気象庁火山監視・警報センター	03-6758-3900
気象：気象庁庁内（自動応答）	03-5422-1018
関連機関連絡先	
岐阜県危機管理防災課	058-272-1111
岐阜県警察本部	0577-33-1111
高山市役所	0577-32-3333
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会事務局	0578-89-3005
（お問い合わせ時間帯：平日の午前8時30分～午後5時15分まで）	
高山地域救急医療情報センター	0577-34-3799
（休日や夜間などの病気、怪我の時）	
観光情報など	
高山市役所観光課	0577-35-3145
飛騨・高山観光コンベンション協会	0577-36-1011
奥飛騨温泉郷観光協会	0578-89-2614

噴火に備えて

焼岳は活火山です！
概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を「活火山」と定義しています。焼岳は近年では1915年（大正4年）、1925年（大正14年）、1962年（昭和37年）などに水蒸気噴火を繰り返しており、現在も噴気活動を続けています。噴火やそれに伴う危険に備えましょう。

焼岳の活動状況チェック！
・焼岳の噴火警戒レベル
噴火警戒レベルとは、火山活動の状況や噴火時の危険範囲や避難等の必要な防災対応に応じて5段階（レベル1～レベル5）に区分したものです。住民や登山者等に必要防災対応が分かりやすいように、各区分にそれぞれ「活火山であることに留意」「火口周辺規制」「入山規制」「高齢者等避難」「避難」のキーワードをつけて警戒を呼びかけます。なお、レベルの段階に関わらず、気象庁からの情報には常に注意してください。

予報・警戒の名称	レベル・キーワード	登山者・入山者等への対応
噴火警報	レベル5：避難	危険な居住地域からの避難等が必要
	レベル4：高齢者等避難	警戒が必要な居住地域では高齢者等避難等が必要。住民は避難の準備等が必要
火口周辺警報	レベル3：入山規制	登山禁止や入山規制等危険な地域への立ち入り規制等
	レベル2：火口周辺規制	火口周辺への立ち入り規制等
噴火予報	レベル1：活火山であることに留意	状況に応じて火口内への立ち入り規制等

登山道の規制について
噴火警戒レベルの引き上げに伴い、火口周辺の立ち入りを規制する場合があります。立ち入りが規制されている場所へは、絶対に入らないようにしましょう。

焼岳上空の風向き
噴煙は風に吹かれて風下へ流れ、噴石や火山灰を降らせまます。噴火した場合は上空の風向きをチェックしましょう。

災害を起こす主な火山現象

噴石

噴火によって火口から吹き飛ばされる岩石。特に、大きな噴石は落下時間が短く、避難するための時間がほとんどありません。また、破片が小さく、数km離れた場所まで被害が及ぶことがあります。

火砕流や火砕サージ

噴火により放出された火山灰や噴石と火山ガスなどが混合し、斜面を流れる現象です。速さは時速60km以上、温度は数百度に達することもあり、大変危険です。火砕流に伴う火砕サージはより遠方に到達します。

土石流

斜面に厚く降り積もった火山灰や噴石が、雨の時に水と混じって谷などを勢いよく流れ下る現象です。大雨の時は注意が必要です。

溶岩流

マグマが火口から流れ出し、山の斜面を流れる現象です。速度は遅いが高温です。

火山灰
噴火によって泡立ったマグマの破片（軽石）や溶岩のかけらが噴き上げられ、地上に降る現象です。軽石や火山灰は風下側に降るので、上空の風向きに注意し、火山灰が降ってきたらマスクが濡らしたハンカチなどで口と鼻をおおひまう。目に入ったら、こすらずに洗い流しましょう。

火山ガス
二酸化硫黄や硫化水素など有毒なガスが含まれています。規制場所には入らないください。草地や谷地形などに溜まりやすく、無風のときは特に注意が必要です。

空振
噴火に伴う爆発によって生じる空気の振動、衝撃波です。火山に面した窓ガラスなどが割れる被害が生じることがあります。



噴火警戒レベル2・3の場合の立入規制地点図

